

(図画工作)

自分の考えや思いを表現し、伝え合い学び合う子どもを育てる  
～「図画工作科」の活動を通して～

大阪市立大隅西小学校 研修部

### 1. 研究主題設定の理由

本校では学校教育目標として、「自ら学び 豊かな心をもった たくましい子どもを育てる」とし、目指す子ども像を「しっかり考える子ども」「思いやりのある子ども」「たくましい子ども」の3点とし、その実現に向けて日々教育活動を進めている。

本校の児童の実態として、素直に話を聞き、何事にも興味・関心を持ち、与えられた課題や目標に向かって真面目に取り組むことができる児童が多くいる。しかしその一方で、自分の思っていることや感じていることを表現したり、相手に伝えたりすることに課題のある児童も多い。このような現状から、「自己実現に向かう過程」を大切にできる教科である「図画工作科」を研究教科とし、自分の思いや考えを表現し、自分のよさを知り、互いを伸ばしあう集団を育成することをめざして、研究主題を「自分の考えや思いを表現し、伝え合い学び合う子どもを育てる」とし、副題を「～図画工作科の活動を通して～」と設定した。

### 2. 研究の趣旨

昨年度は、児童が図画工作科の学習を通して、楽しく意欲的に表現活動ができることを目指し、つくり出す楽しさを味わわせることに視点をおいた授業づくりに取り組んだ。児童がわくわくしながら活動できる授業づくりを進めることで、児童はつくり出す喜びを味わうことができ、図画工作科アンケート「図画工作科の時間は楽しいですか」の質問に対して、「とても楽しい」「楽しい」と答えた児童がどの学年も8割近くいた。しかし、「自分の作品を気に入っていますか」の質問に対して、学年が上がるにつれて、「あまり当てはまらない」、「当てはまらない」と答える児童が増えていることがわかった。そこで、今年度は、図画工作科の学習を通して、自分の思いや考えを豊かに表現する喜びを味わい、自分のよさや友達のよさを見つけることに視点をおいて取り組むことにした。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるために、研究の視点を以下のように設定した。

#### 視点① 言語活動

- 自分の思いや考えを表現する場を設定する。
- 鑑賞活動の方法を工夫する。
- 友だちのよいところを見つけて伝え合う場を設ける。
- 交流の場の持ち方を考える。

## 視点② 場の設定の工夫による子どもの反応

- 子ども一人一人が自分のよさを発揮できる手立てを考える。
- 題材に応じたさまざまな材料や用具を準備する。
- 基礎的・基本的な力を高める工夫
- 個に応じた支援の仕方の工夫

## 4. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 机の形を「グループ」にして活動を行ったり、制作の途中や制作後の鑑賞方法を工夫することで、自他の表現方法や技能の違いに気付いたり、友達の作品のよさを見つけたりすることができた。また、それを自分の作品に取り入れていくことができた。
- お互いの作品を鑑賞し合うことで、自分の作品が友達に認められたり、また友達の作品の良いところを見つけたりすることができるようになった。そして、友達から自分の作品が称賛されることで、達成感を持ち、自尊感情を高めることにつながり、自分の作品に自信を持つことができた。
- 自分の思いが実現できるように材料コーナーを設けることで、自分の作品に必要なものを取捨選択することができた。
- 作品をつくる活動では、事前にアイデアスケッチを行うことで、つくりたいもののイメージを持つことができ、迷うことなく活動に入る手助けとなった。

### (2) 今後の課題

- 用具の使い方や技法の指導を丁寧に行い、継続した取り組みを進めていく。
- 児童の発達段階に応じて、系統的な指導をし、実践を積み重ねていく。
- 学習内容、特徴に応じて鑑賞活動を大切にしながら十分な表現活動の時間が確保できるように考えていく。
- 一人一人の思いにそった支援のあり方、自分の思いをうまく表現できない児童への支援のあり方を工夫していく。